

7月10日を「指笛の日」として制定します(宣言)

指笛は昔から沖縄の生活の中で盛んに活用されてきました。エイサーやカチャーシー、沖縄音楽の中の指笛はもちろん、緊急時および危険防止などの合図としても吹き鳴らされています。また、甲子園の高校野球の応援で吹かれる指笛がテレビやラジオで放送されてきました。

その結果、沖縄は日本の中でも指笛がもっとも盛んな地域だと思われてきました。指笛は、沖縄の伝統文化の一つとして県民にも認識されてきたのではないのでしょうか。

しかし、実際に指笛の出来る人は意外に少ないのが実情です。

私たちは、このような指笛の重要性と実情を踏まえて「指笛の日」を制定し、積極的に指笛の普及、発表、研究などの取り組みを推進していくことが、「指笛文化」の継承、発展にとって極めて有意義なことであると考えました。そして、具体的に「指笛の日」をいつにした方が良いのか話し合いました。

その結果、7月10日が適切であるとの判断をいたしました。

理由は、

- ① 指笛は、その力強く美しい音色でエイサーの演舞とマッチして吹き鳴らされていることなどから、季節的には「夏」のイメージであり、梅雨明けの7月がふさわしいこと。
- ② 指笛を吹くときに、一般的には人差指や小指を7の字の形に曲げたり、親指と人差指、または中指で輪（マル）をつくり、その指を口にくわえて吹き鳴らすこと。
- ③ 基本的には、10本の指をすべて使って吹き鳴らすことが出来ること。

以上のようなことから、7月10日を「指笛の日」として宣言します。

私たちは、この「指笛の日」の制定によって、沖縄の指笛文化への関心がいっそう高まり、子どもの遊びや、社会教育、学校教育など、さまざまな団体で、工夫して指笛の普及、発表などの活動が取り組まれることを期待します。

また、報道各社におかれましても「指笛の日」の制定について報道していただき、沖縄の指笛文化を県内外に発信してくださることを希望いたします。

「指笛の日」の制定に関する懇談会

座長 宜保栄治郎（民俗芸能研究家）

委員（五十音順）

新垣 正祐（西原町長）

久保田秀樹（沖縄県青年団協議会会長）

洲鎌 孝（財団法人沖縄観光コンベンションビューロー
常務理事）

高嶺 久枝（琉球舞踊家）

玉寄 哲永（沖縄県子ども会育成連絡協議会会長）

富田 詢一（琉球新報社 事業局長）

豊平 良孝（沖縄タイムス社 文化事業局長）

吉澤 直美（フリーアナウンサー）

（事務局担当）

垣花 譲二（指笛王国おきなわ 国王 電話 090-9783-9066）

波部 彰宣（指笛王国おきなわ 内務大臣 電話 090-7586-2070）

浦崎 幸夫（指笛王国おきなわ 教育大臣 電話 090-7477-7259）

（以上）



「指笛王国おきなわ」のロゴマーク